

IV 調査結果の詳細

IV 調査結果の詳細

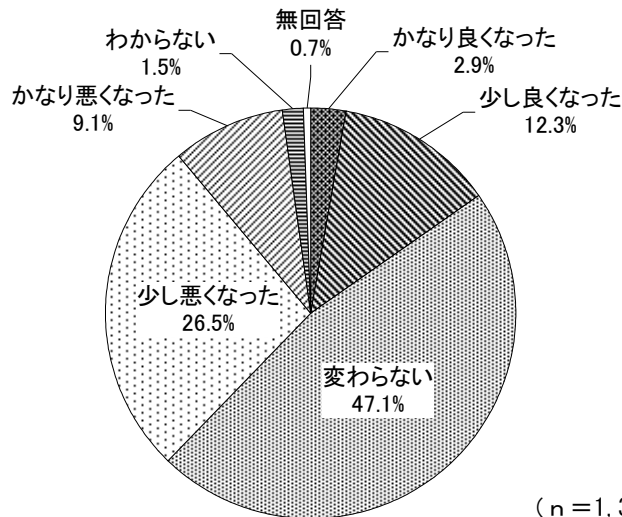
1 暮らしの変化について

(1) 暮らしの変化

問1 あなたの暮らしは、この5～6年の間にどう変わりましたか。次の中から1つ選んでください。

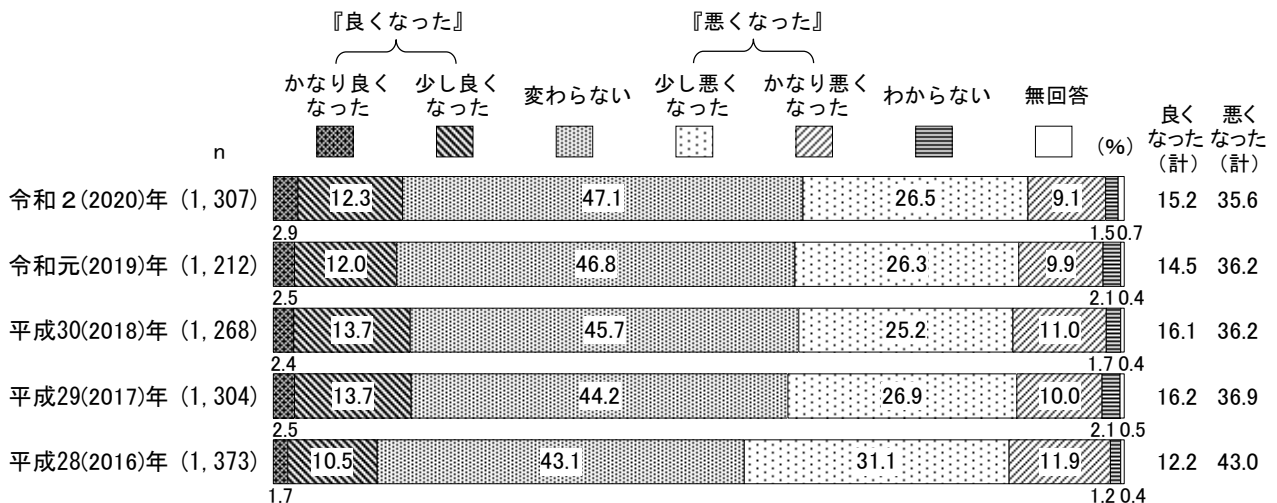
[n=1,307]

1	かなり良くなった	2.9%	4	少し悪くなった	26.5%
2	少し良くなった	12.3%	5	かなり悪くなった	9.1%
3	変わらない	47.1%	6	わからない	1.5%
				(無回答)	0.7%



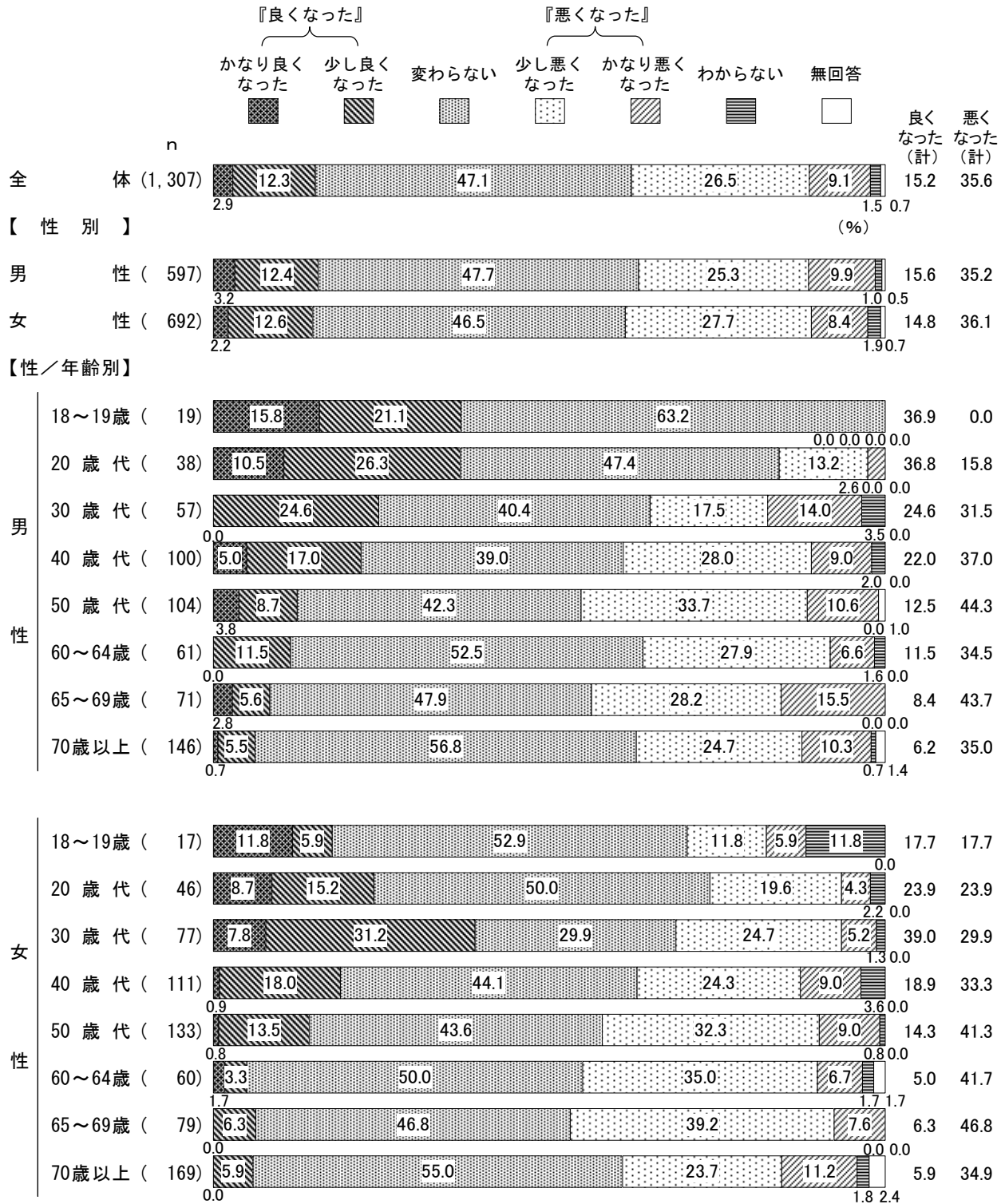
(n=1,307)

全体で見ると、「かなり良くなった」(2.9%)と「少し良くなった」(12.3%)の2つを合わせた『良くなった』(15.2%)が1割半ばとなっている。一方、「少し悪くなった」(26.5%)と「かなり悪くなった」(9.1%)の2つを合わせた『悪くなった』(35.6%)が3割半ばとなっている。また、「変わらない」(47.1%)が5割近くとなっている。



過去の調査結果と比較すると、平成29(2017)年以降大きな傾向の違いはみられない。

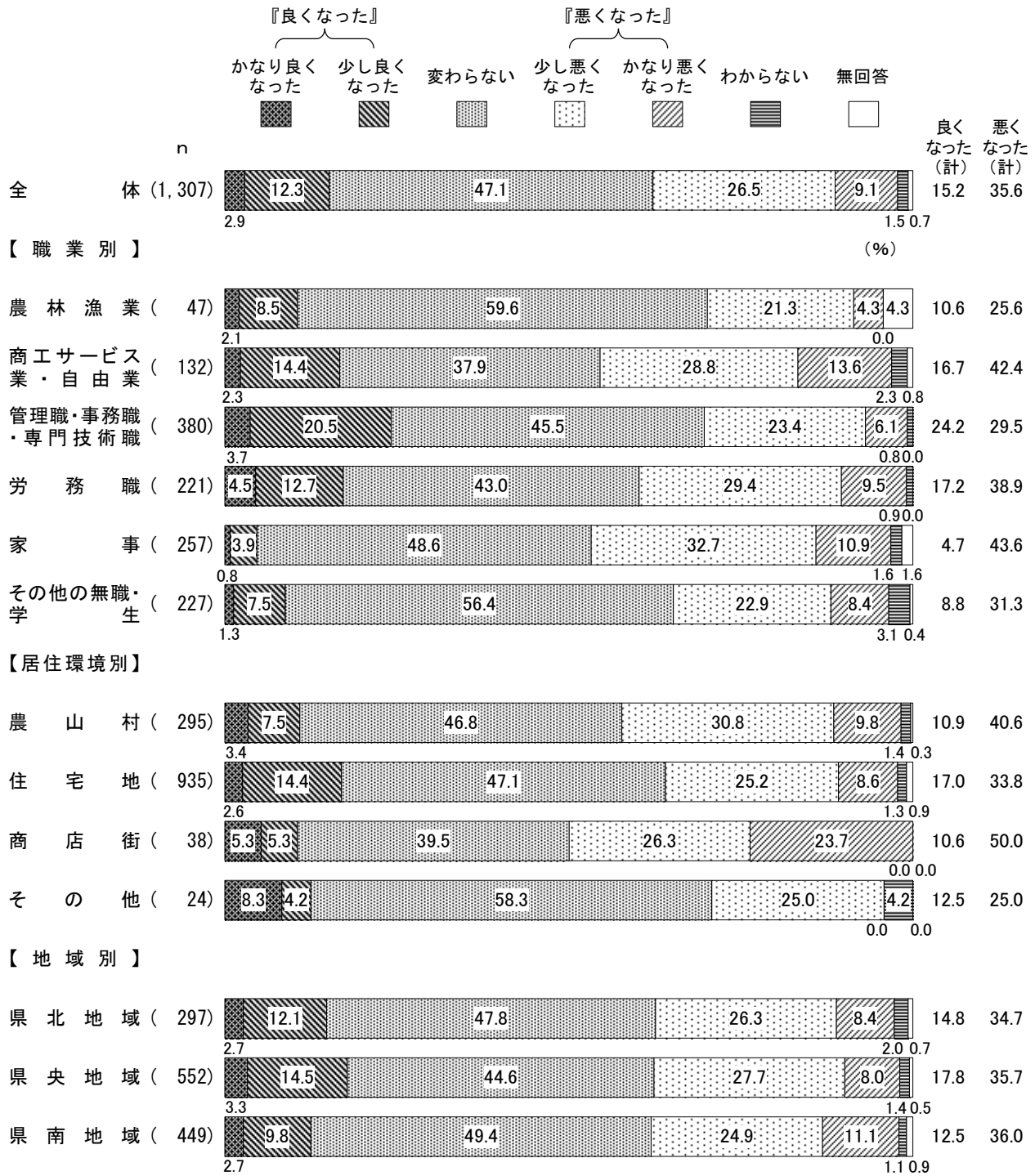
【性別・性／年齢別】



性別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

性／年齢別でみると、『良くなった』では〈女性30歳代〉が39.0%、〈男性20歳代〉が36.8%と高くなっている。一方、『悪くなった』では〈女性65～69歳〉が46.8%と高くなっている。

[職業別・居住環境別・地域別]



職業別でみると、『良くなった』では〈管理職・事務職・専門技術職〉が24.2%と高くなっている。一方、『悪くなった』では〈家事〉が43.6%と高くなっている。

居住環境別でみると、「少し良くなった」では〈住宅地〉が14.4%と高くなっている。一方、「かなり悪くなった」では〈商店街〉が23.7%と高くなっている。『悪くなった』では〈商店街〉が50.0%と高くなっている。

地域別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

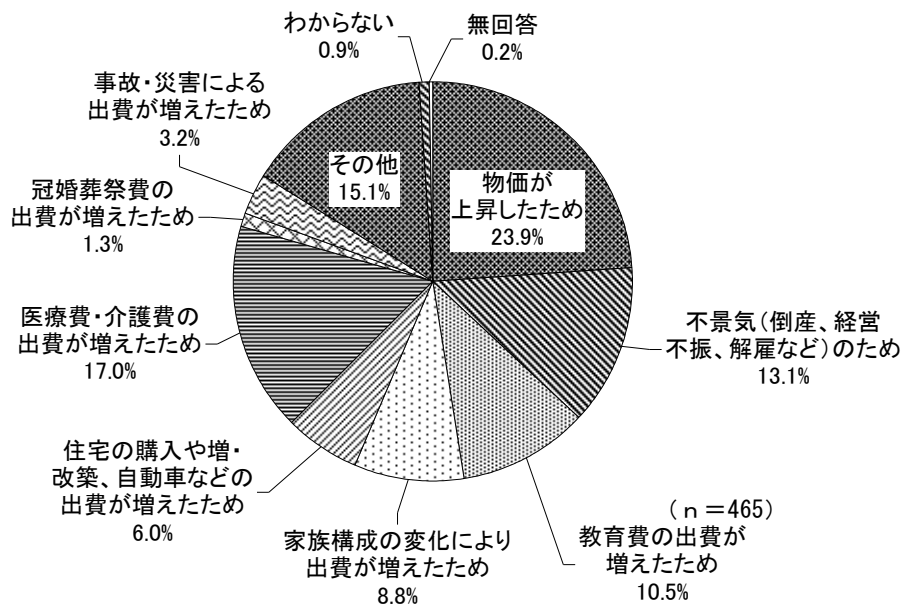
(1-1) 暮らしが悪くなった理由

(問1で選択肢「少し悪くなった」、「かなり悪くなった」を選んだ方のみお答えください)

問1-1 悪くなったのは、主にどのようなことからですか。もっとも大きな要因を1つ選んでください。

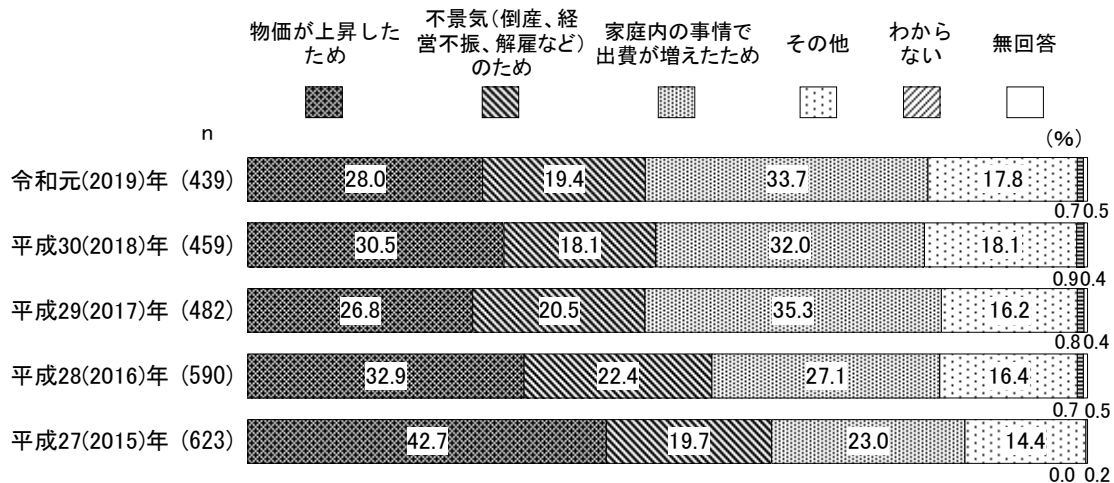
[n=465]

1	物価が上昇したため	23.9%	6	医療費・介護費の出費が増えたため	17.0%
2	不景気(倒産、経営不振、解雇など)のため	13.1%	7	冠婚葬祭費の出費が増えたため	1.3%
3	教育費の出費が増えたため	10.5%	8	事故・災害による出費が増えたため	3.2%
4	家族構成の変化により出費が増えたため	8.8%	9	その他	15.1%
5	住宅の購入や増・改築、自動車などの出費が増えたため	6.0%	10	わからない	0.9%
				(無回答)	0.2%

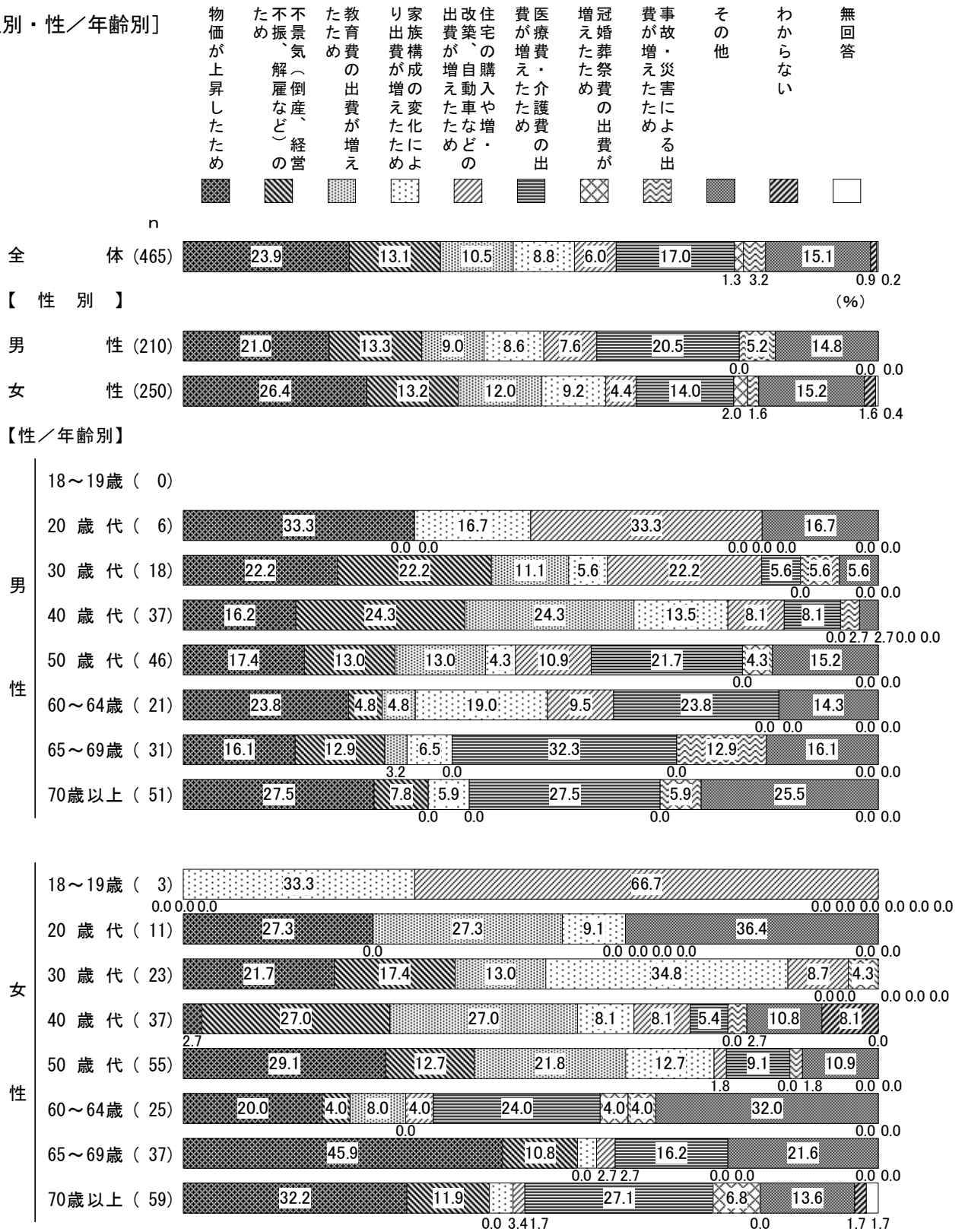


全体で見ると、「物価が上昇したため」(23.9%)が2割を超えて最も高く、次いで「医療費・介護費の出費が増えたため」(17.0%)、「不景気(倒産、経営不振、解雇など)のため」(13.1%)、「教育費の出費が増えたため」(10.5%)の順となっている。

過去の調査結果との比較は、選択肢を今回調査で大幅に見直したため、比率を直接比較することができないことから、参考として過去の調査結果を示す。



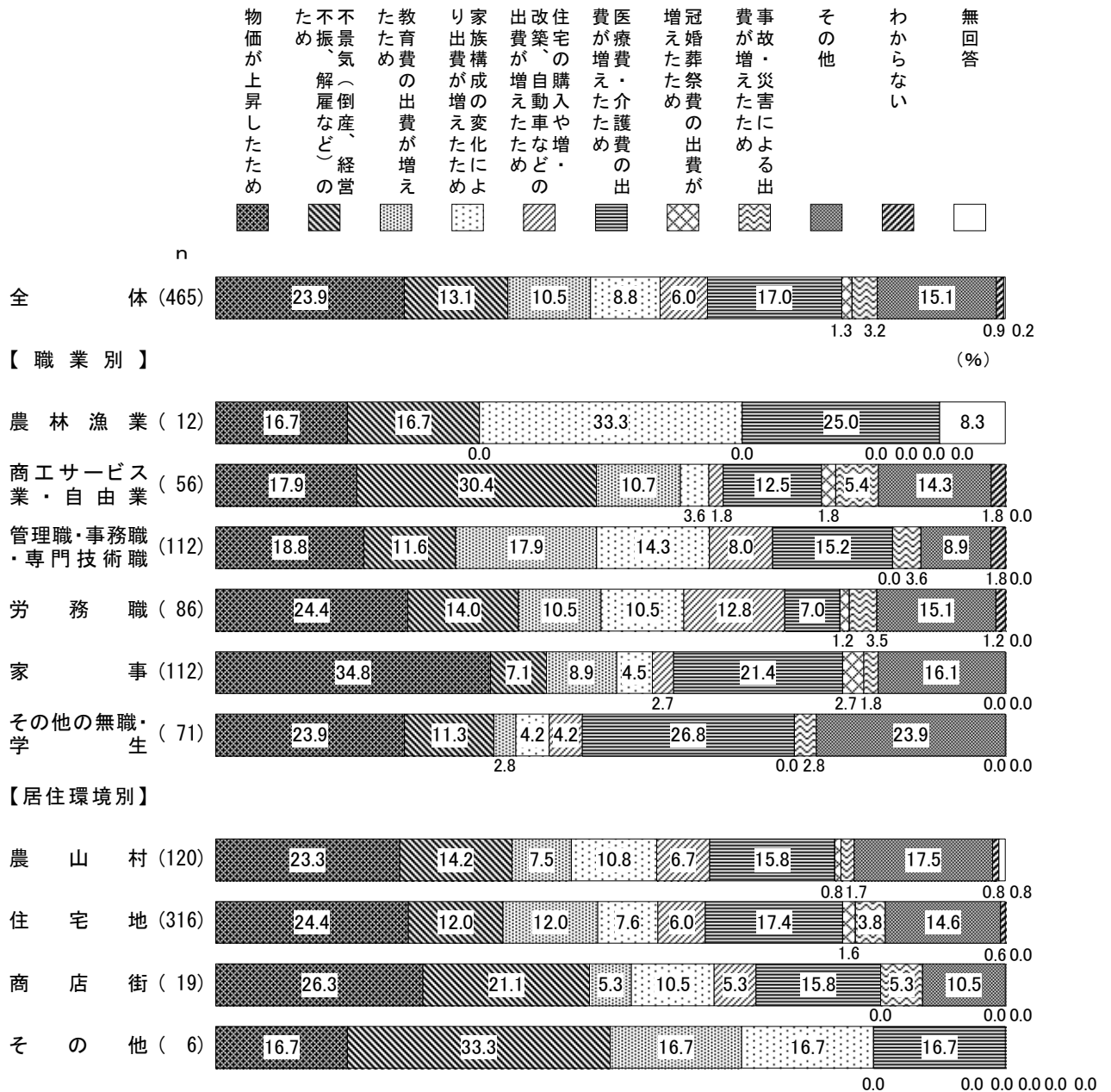
[性別・性／年齢別]



性別でみると、「医療費・介護費の出費が増えたため」では〈男性〉(20.5%)が〈女性〉(14.0%)より6.5ポイント高くなっている。「物価が上昇したため」では〈女性〉(26.4%)が〈男性〉(21.0%)より5.4ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、「物価が上昇したため」では〈女性65～69歳〉が45.9%と高くなっている。「不景気（倒産、経営不振、解雇など）のため」では〈女性40歳代〉が27.0%と高くなっている。「教育費の出費が増えたため」では〈女性40歳代〉が27.0%と高くなっている。「医療費・介護費の出費が増えたため」では〈男性65～69歳〉が32.3%、〈男性70歳以上〉が27.5%、〈女性70歳以上〉が27.1%と高くなっている。

[職業別・居住環境別]



職業別でみると、「物価が上昇したため」では〈家事〉が34.8%と高くなっている。「不景気（倒産、経営不振、解雇など）のため」では〈商工サービス業・自由業〉が30.4%と高くなっている。「医療費・介護費の出費が増えたため」では〈その他の無職・学生〉が26.8%と高くなっている。

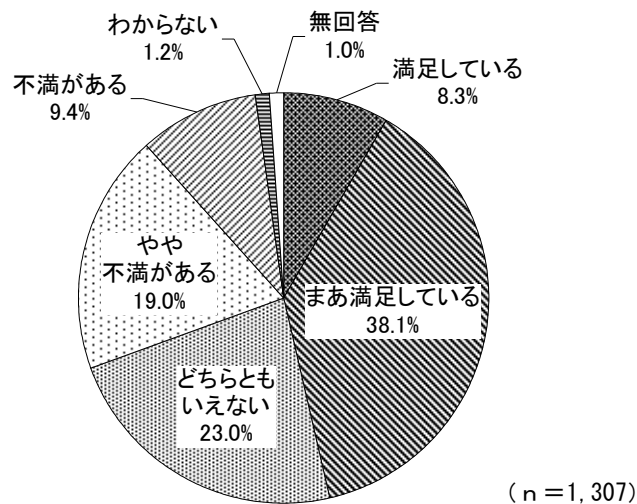
居住環境別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

(2) 暮らしの満足度

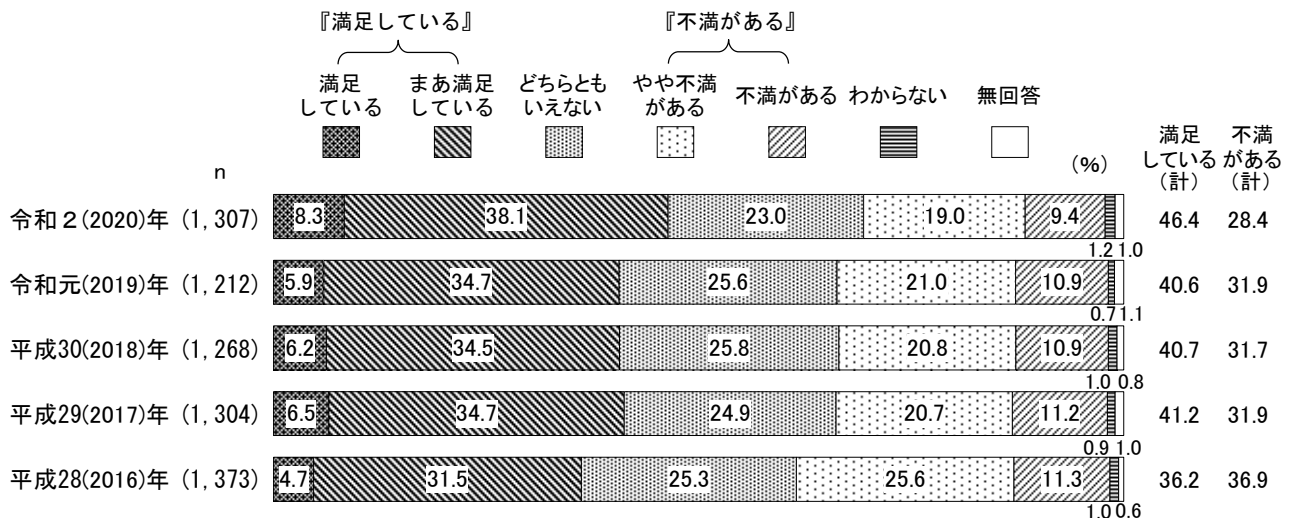
問2 あなたは、今の暮らしについてどの程度満足していますか。次の中から1つ選んでください。

[n=1,307]

1 満足している	8.3%	4 やや不満がある	19.0%
2 まあ満足している	38.1	5 不満がある	9.4
3 どちらともいえない	23.0	6 わからない	1.2
		(無回答)	1.0

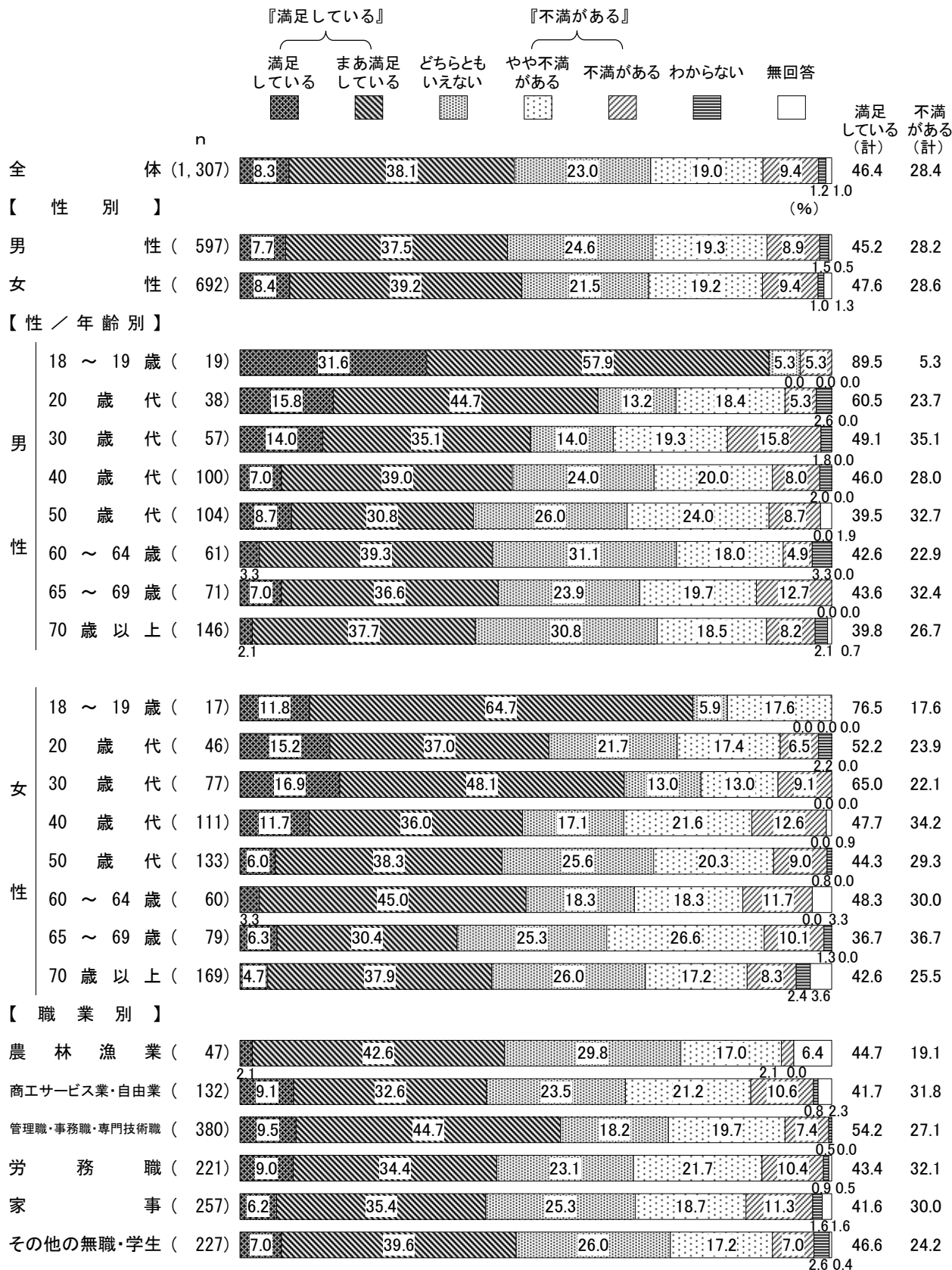


全体でみると、「満足している」(8.3%)と「まあ満足している」(38.1%)の2つを合わせた『満足している』(46.4%)が4割半ばとなっている。一方、「やや不満がある」(19.0%)と「不満がある」(9.4%)の2つを合わせた『不満がある』(28.4%)が3割近くとなっている。また、「どちらともいえない」(23.0%)が2割を超えている。



過去の調査結果と比較すると、『満足している』が令和元(2019)年より5.8ポイント増加している。一方、『不満がある』が令和元(2019)年より3.5ポイント減少している。

[性別・性／年齢別・職業別]

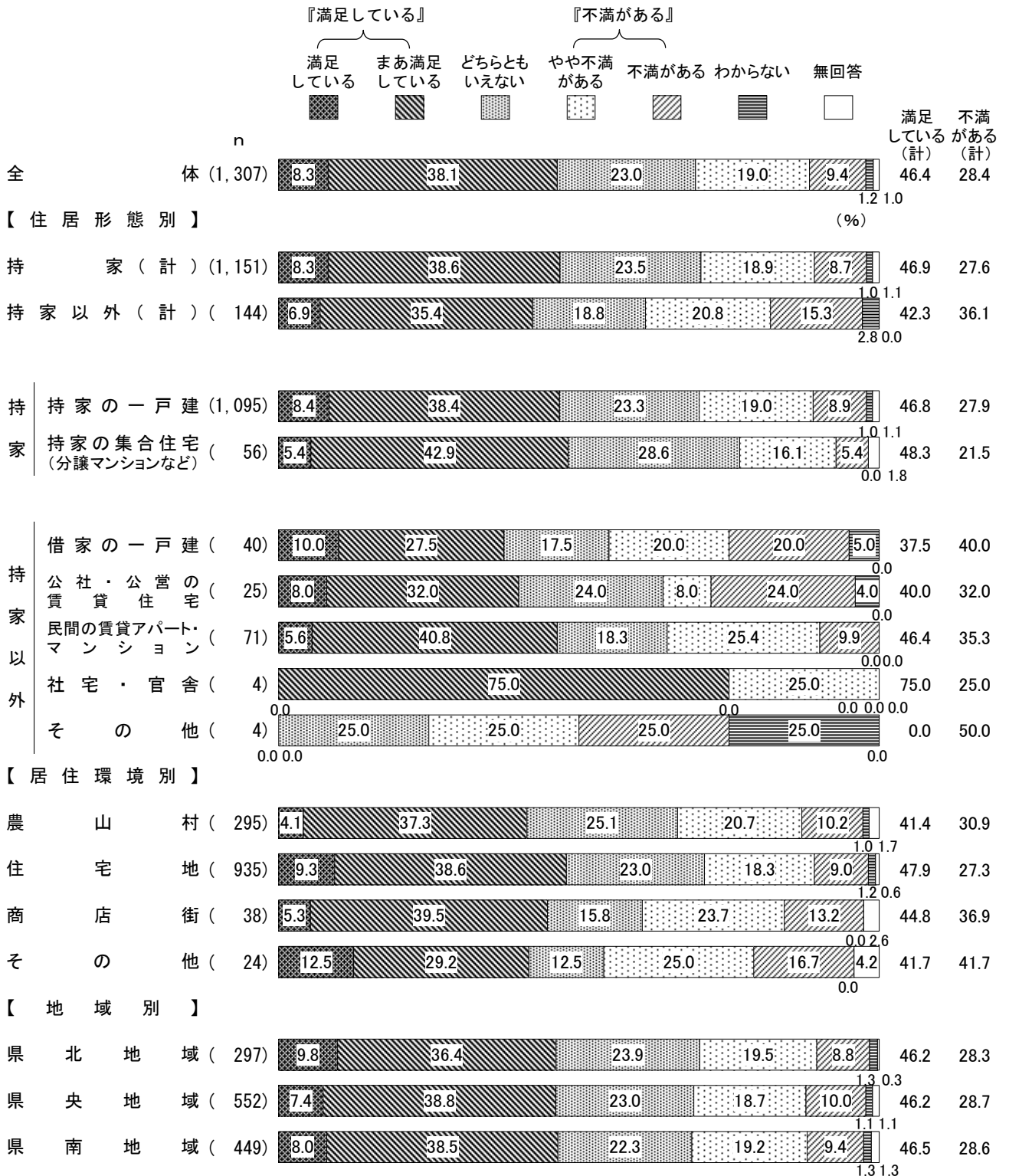


性別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

性／年齢別でみると、『満足している』では〈女性30歳代〉が65.0%と高くなっている。

職業別でみると、『満足している』では〈管理職・事務職・専門技術職〉が54.2%と高くなっている。

〔住居形態別・居住環境別・地域別〕



住居形態別でみると、『満足している』では〈持家 (計)〉 (46.9%) が〈持家以外 (計)〉 (42.3%) より4.6ポイント高くなっている。一方、『不満がある』では〈持家以外 (計)〉 (36.1%) が〈持家 (計)〉 (27.6%) より8.5ポイント高くなっている。

居住環境別でみると、『満足している』では〈住宅地〉が47.9%と高くなっている。

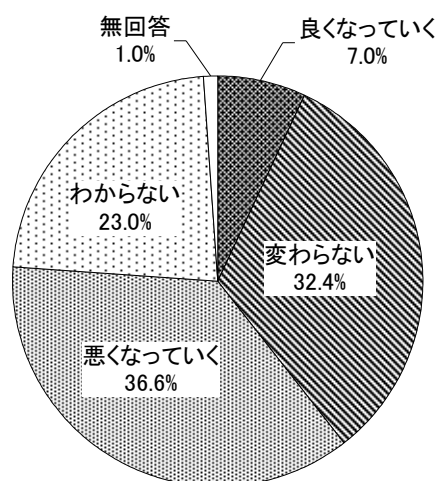
地域別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

(3) 今後の暮らしの状況

問3 あなたの暮らしは、これから先どうなっていくと思いますか。次の中から1つ選んでください。

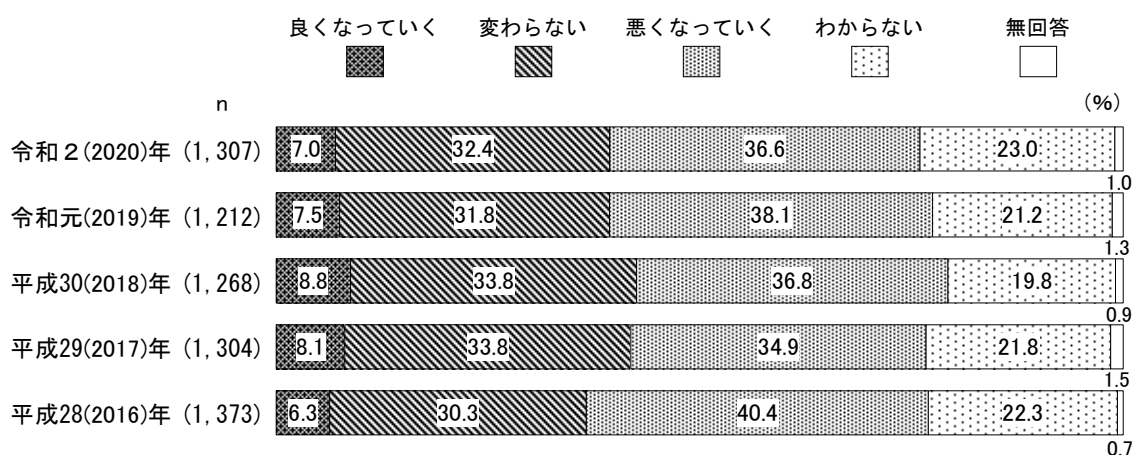
[n=1,307]

1 良くなっていく	7.0%	3 悪くなっていく	36.6%
2 変わらない	32.4%	4 わからない	23.0%
		(無回答)	1.0%



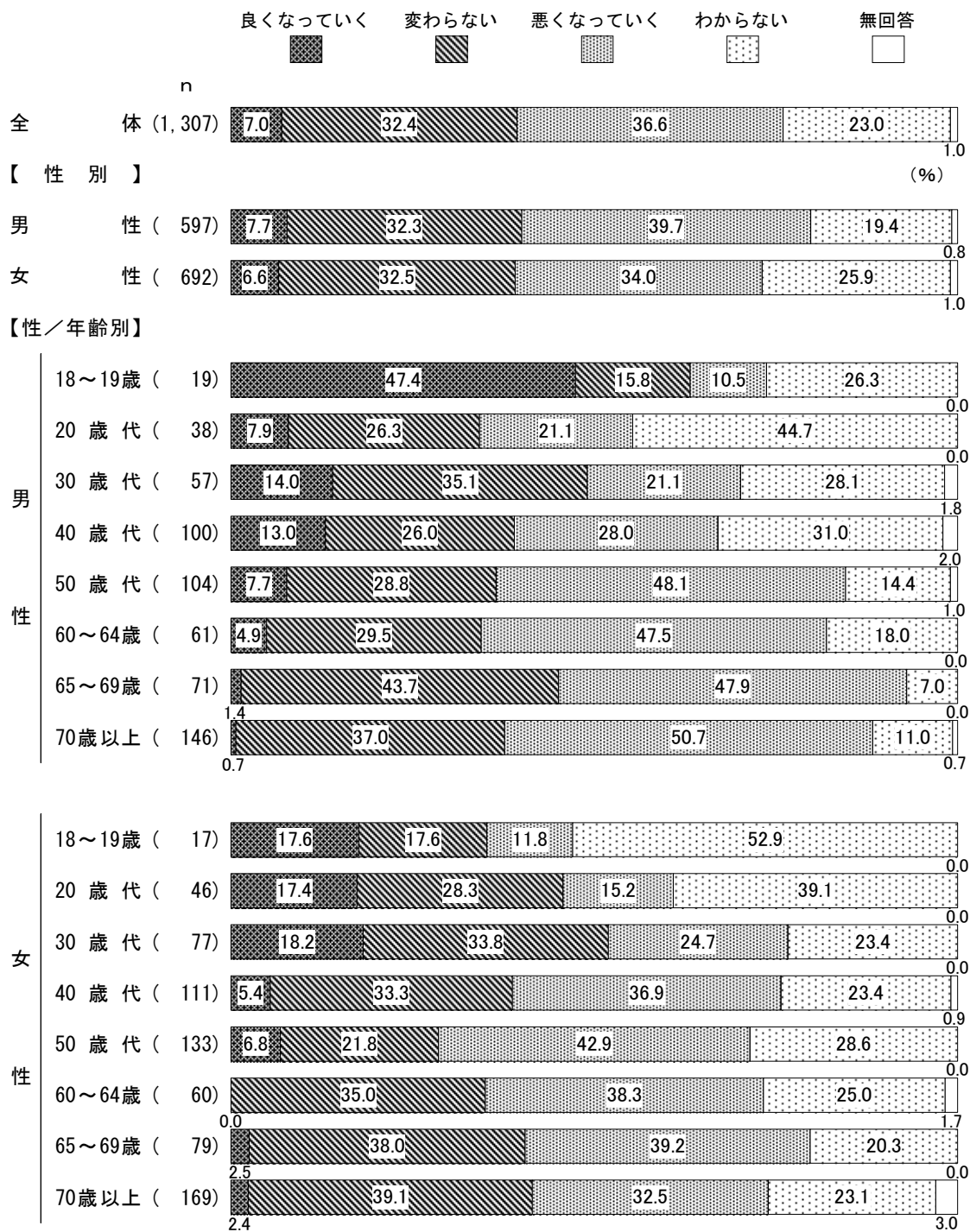
(n=1,307)

全体で見ると、「良くなっていく」(7.0%)が1割近くとなっている。「変わらない」(32.4%)は3割を超えており、「悪くなっていく」(36.6%)は4割近くとなっている。



過去の調査結果と比較すると、令和元(2019)年と大きな傾向の違いはみられない。

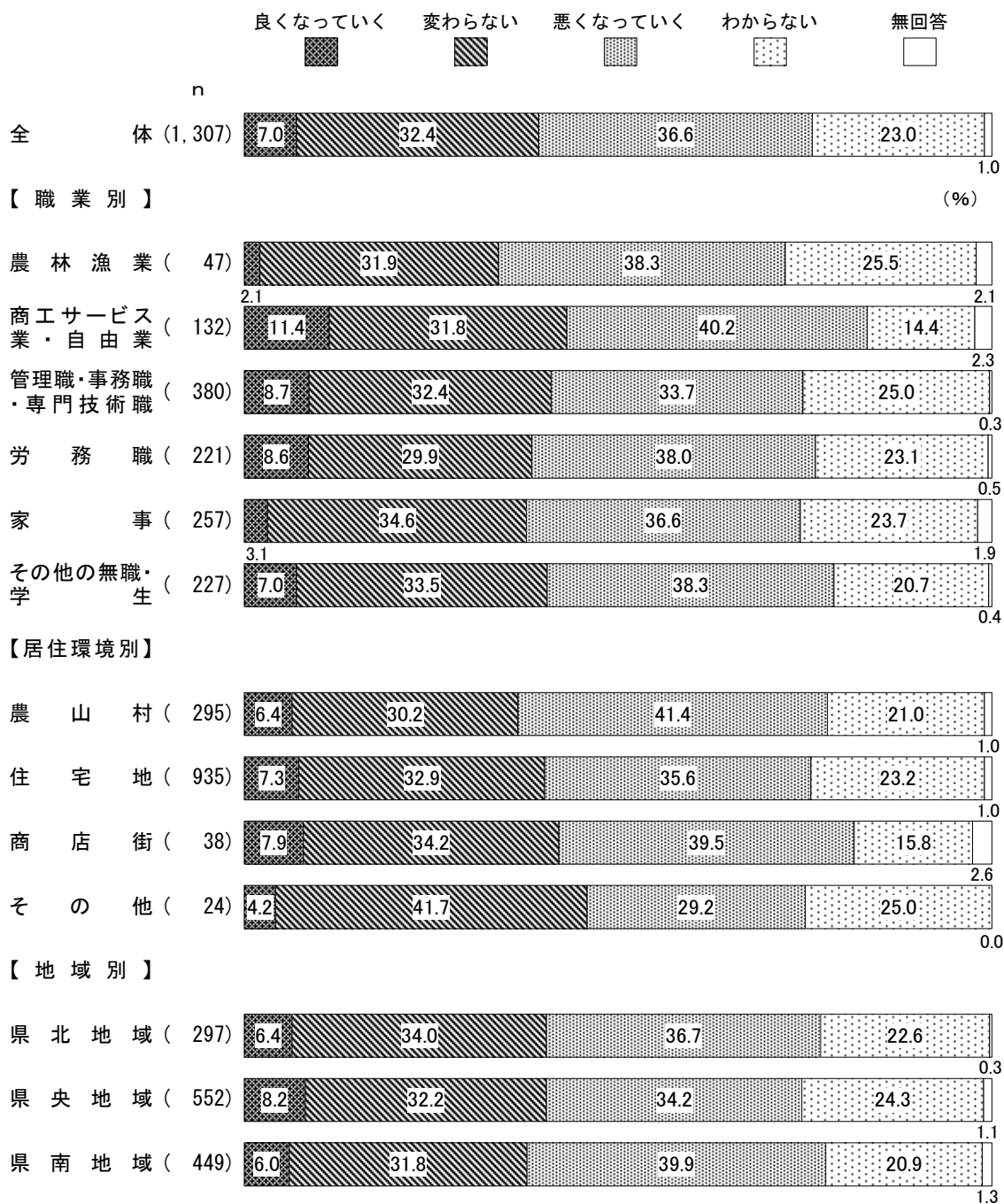
[性別・性／年齢別]



性別で見ると、「悪くなっていく」では〈男性〉(39.7%)が〈女性〉(34.0%)より5.7ポイント高くなっている。

性／年齢別で見ると、「良くなっていく」では〈女性30歳代〉が18.2%、〈女性20歳代〉が17.4%となっている。「変わらない」では〈男性65～69歳〉が43.7%と高くなっている。「悪くなっていく」では〈男性70歳以上〉が50.7%、〈男性50歳代〉が48.1%、〈男性65～69歳〉が47.9%と高くなっている。

[職業別・居住環境別・地域別]



職業別で見ると、「良くなっていく」では〈商工サービス業・自由業〉が11.4%と他の職業と比べ高くなっている。一方、「悪くなっていく」では〈商工サービス業・自由業〉が40.2%と高くなっている。

居住環境別で見ると、「悪くなっていく」では〈農山村〉が41.4%と高くなっている。

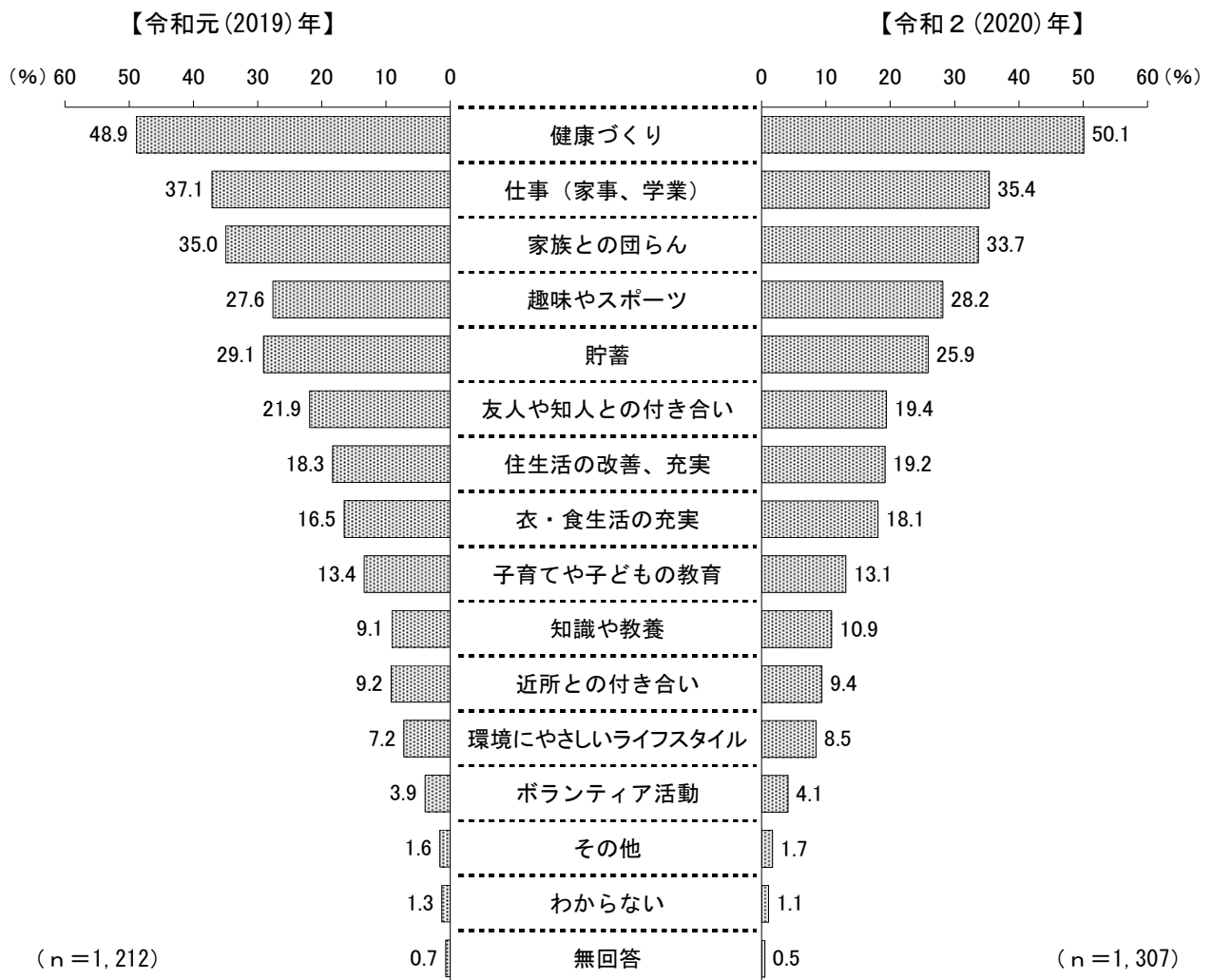
地域別で見ると、「悪くなっていく」では〈県南地域〉が39.9%と高くなっている。

(4) 今後の暮らしで力を入れる点

問4 あなたは、今後の暮らしの中で、どのような点に力を入れていきたいと思いますか。
次の中から3つまで選んでください。

[n=1,307]

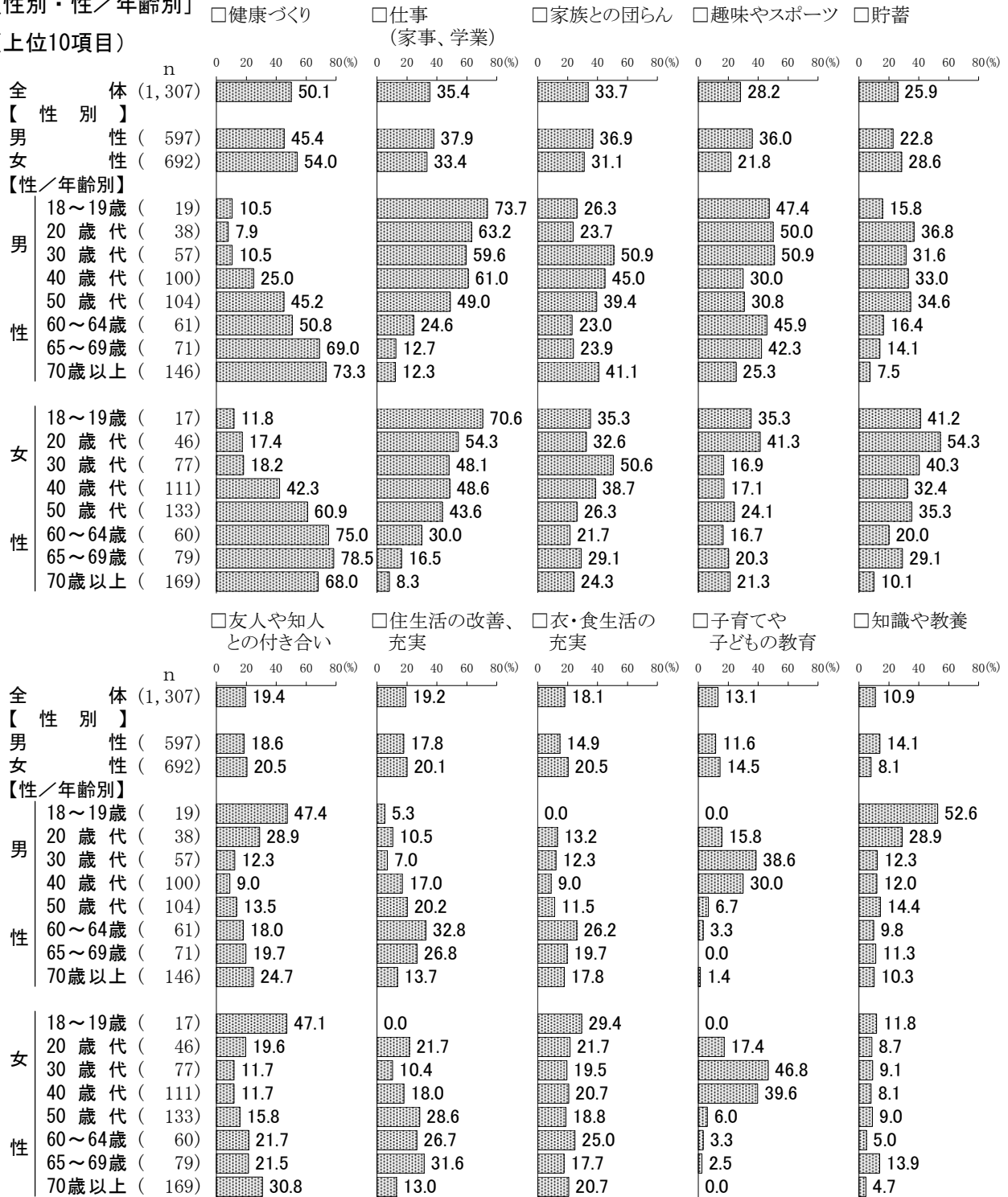
1	仕事（家事、学業）	35.4%	9	家族との団らん	33.7%
2	知識や教養	10.9	10	近所との付き合い	9.4
3	貯蓄	25.9	11	友人や知人との付き合い	19.4
4	趣味やスポーツ	28.2	12	子育てや子どもの教育	13.1
5	ボランティア活動	4.1	13	健康づくり	50.1
6	衣・食生活の充実	18.1	14	その他	1.7
7	住生活の改善、充実	19.2	15	わからない	1.1
8	環境にやさしいライフスタイル	8.5		(無回答)	0.5



全体で見ると、「健康づくり」(50.1%)が5割で最も高く、次いで「仕事(家事、学業)」(35.4%)、「家族との団らん」(33.7%)、「趣味やスポーツ」(28.2%)、「貯蓄」(25.9%)の順となっている。

令和元(2019)年の調査結果と比較すると、「貯蓄」が3.2ポイント減少している。

【性別・性／年齢別】
 (上位10項目)

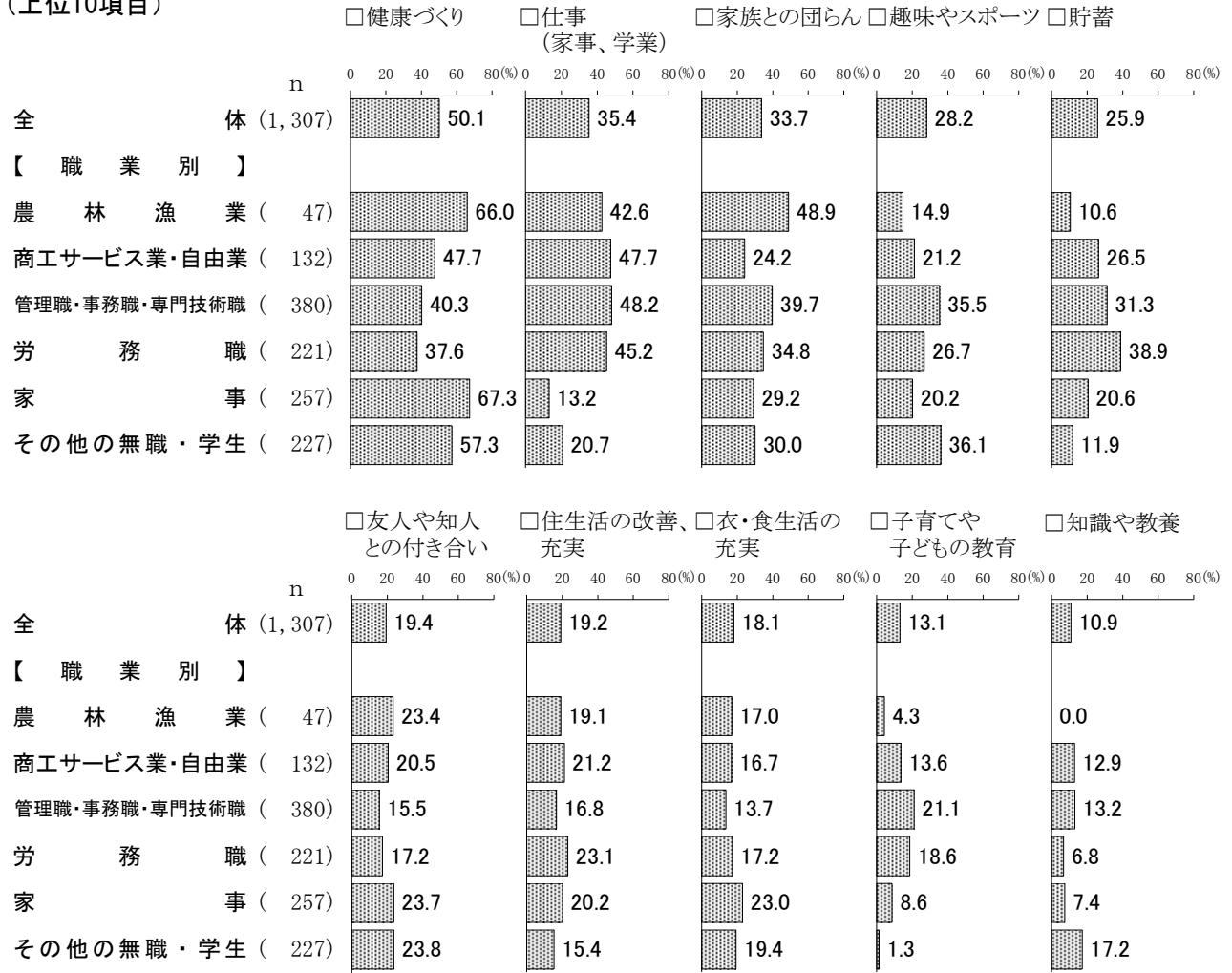


性別でみると、「趣味やスポーツ」では〈男性〉(36.0%)が〈女性〉(21.8%)より14.2ポイント高くなっている。「健康づくり」では〈女性〉(54.0%)が〈男性〉(45.4%)より8.6ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、「健康づくり」では〈女性65~69歳〉が78.5%、〈女性60~64歳〉が75.0%と高くなっている。「仕事(家事、学業)」では〈男性20歳代〉が63.2%、〈男性40歳代〉が61.0%と高くなっている。「家族との団らん」では〈男性30歳代〉が50.9%、〈女性30歳代〉が50.6%と高くなっている。「趣味やスポーツ」では〈男性30歳代〉が50.9%、〈男性20歳代〉が50.0%と高くなっている。「貯蓄」では〈女性20歳代〉が54.3%と高くなっている。「子育てや子どもの教育」では〈女性30歳代〉が46.8%、〈女性40歳代〉が39.6%、〈男性30歳代〉が38.6%と高くなっている。

[職業別]

(上位10項目)



職業別で見ると、「健康づくり」では〈家事〉が67.3%、〈農林漁業〉が66.0%と高くなっている。「仕事(家事、学業)」では〈管理職・事務職・専門技術職〉が48.2%、〈商工サービス業・自由業〉が47.7%と高くなっている。「家族との団らん」では〈農林漁業〉が48.9%と高くなっている。「貯蓄」では〈労務職〉が38.9%と高くなっている。